

研究・調査報告書

報告書番号	担当
403	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳） Fatal all-terrain vehicle crashes: injury types and alcohol use 致命的全地形対応車事故について：外傷の種類と飲酒の状況から	
執筆者 Hall AJ, Bixler D, Helmkamp JC, Kraner JC, Kaplan JA.	
掲載誌（番号又は発行年月日） Am J Prev Med. 2009 Apr;36(4):311-6. Epub 2009 Feb 7.	
キーワード 全地形対応車、飲酒、外傷、アルコール、薬物乱用、ヘルメット	
要 旨 目的： 1990年代からウェストバージニアにける全地形対応車の事故による一人当たり死亡率はアメリカ平均の8倍であり、増加しつづけた。地域介入に資する決定的な手引きと更なる死亡事故を防ぐ公衆衛生政策を提供するため全地形対応車死亡に対する総合的な評価を行った。	
方法： 2007年に全地形対応車事故に関連した2004-2006年のICD10コードにより確認された死者をウェストバージニアで起こった事故に関係した死者と照合した。データは事故状況・怪我の状態・中毒に関する監察医記録から抽出した。	
結果： 2004-2006年に112件の全地形対応車の致命的な事故が確認された。ほとんどすべての(92%)死亡者は全地形対応車の運転手であり、ヘルメットをかぶっていたのはたった15%であった。54の交通事故の内、衝突(56%)と頭部外傷(65%)が多く、一方58例の非交通事故の多数は横転(55%)であり、胸腹部圧迫損傷(36%)と尤も関連していた。事故の分類に関わらず（交通事故か非交通事故か）、アルコールが死亡者の血液の50%から検出され、このうちウェストバージニアの法定上限である0.08%を上回るものが88%で平均0.17%であった。死亡者の21%に薬物の乱用が認められ、マリファナ11%、オピオイド鎮痛薬7%、ジアゼパム6%、コカイン2%、メサンプエタミン1%であった。	
結論： 致命的な事故と外傷の種類は全地形対応車の使用場所によって有意に違いが見られ、アルコールと薬物乱用はすべての全地形対応車事故の種類で高頻度のリスクファクターであった。ヘルメットの着用を促すことに加えて、全地形対応車使用者に飲酒について介入することが必要である。	